

ふるさと亀山の誇りを明日へ



継ぐ

亀山市
市制施行
十周年

ふるさとの記憶が、 大きな未来のまちを育む。

わたしたちが暮らす亀山市は、先人たちが築いてきた固有の歴史や文化と四季折々の美しい自然に恵まれたまちです。古くは東海道の宿場町として栄えたまちで、秀吉が伊勢攻略のために通った峠なども残っています。今なお、その風情を色濃く残すまちなみには、現在を生きる人々の暮らしがあります。街道を歩いて学校へ向かう子どもたち、通勤で行き交う車、ふるさとの風景を日々心の中に刻み込む人々。まちを愛する人々の記憶が、未来を支え育むようにだれもが誇りに思うふるさとの姿を未来へと守り伝え、受け継いでいます。

C O N T E N T S

03	語り継ぐふるさと 亀山十継	17	語り継ぐストーリー 亀山の魅力を紐解く	19	Story 1 歴史文化に彩られた まちなみと街道	21	Story 2 伝統と風土が紡ぐ 多彩な祭り	23	Story 3 水と緑がきらめく 豊かな自然	25	ふるさと亀山の まちづくり 亀山市長 メッセージ	27	産業	29	交通	31	農業	33	環境	35	健康・医療・ 福祉	37	子育て	39	教育	41	歴史 まちづくり	43	市民活動・ 共生・ 生涯学習	44	防災・消防	45	議会	47	名誉市民
----	------------------	----	------------------------	----	---------------------------------	----	------------------------------	----	------------------------------	----	-----------------------------------	----	----	----	----	----	----	----	----	----	--------------	----	-----	----	----	----	-------------	----	----------------------	----	-------	----	----	----	------



目標はやはり
地域全体の活性化です。

任せっぱなしではなく 誇れるまちを自分たちの力で

私たち川崎地区まちづくり協議会は、地域を盛り上げるために福祉事業の充実や自然環境の保護、世代間交流と次世代の育成、防災・防犯対策など、さまざまな取り組みについての意見を出し合い、具現化を進めています。

今までに川崎ふれあい文化祭や熟年会の集い、川崎ふれあいフェスタなどのイベントをはじめ、合同防犯パトロール、はつらつ教室の開催、広報紙の発行などの取り組みを行ってきました。また、拠点である川崎地区コミュニティセンターでは、3月にはお雛様を飾り、4月には鯉のぼりを掲げています。このような取り組みを通して、近くの子どもたちが寄ってきてくれたり、住民の喜びの声を聞いたりすると、本当に嬉しく、活動していて良かったなと思いますね。

川崎地区には伝説の英雄ヤマトタケルを祭った能褒野神社や、秀吉に攻められ落城した峯城、豊かな自然など、誇れるものもありますが、あまり活用されていないのが課題です。今後は、このような地区の誇りを題材としたイベントや特産品を作ったり、河川敷を洪水等の防災対策としても整備して住民の憩いの場にしたたりするなど、いろんな提案をして、もっと活力あるまちを作り上げていきたいですね。

川崎地区まちづくり協議会
とみおのぶたか
会長 富尾 信隆さん

地域まちづくり協議会

川崎地区まちづくり協議会

地域における課題解決の話し合いの場として、平成25年4月に発足。川崎地区の住民一人ひとりが生き生きと生活し、連帯感を持ちつつ自助・共助で社会参画できるまちづくりを目指しています。



安全・安心で 活気ある地域づくり

屋生地区は現在、後継者不足による耕作放棄地の増加、ひとり暮らしの高齢者の増加、サル・イノシシ等の獣害、防災対策の遅れ、公共交通機関の不便さなどさまざまな課題があります。

屋生地区まちづくり協議会は、屋生がいつまでも安全・安心で豊かなまちであり続けるために、地域のことは地域で解決していく活動を行っています。

屋生地区は7つの自治会があります。住民はとて

も仲の良い地域です。子どもから高齢者まで参加する夏まつり、運動会、文化祭、敬老会などのイベントを通して、住民同士の交流がさらに深まってきています。集まった人たちの笑顔を見ると、良かったなあと感じます。

現在、10年後の屋生地区の姿を示す「まちづくり計画」を策定中です。今後は、この計画に沿って、いろいろな事業を実施していくことにしています。

屋生地区まちづくり協議会
まるぼしすみお
会長 丸橋 純夫さん



みんなの力を結集して
地域課題に取り組みんでいます。

亀山市の地域まちづくり 協議会の取り組み

市内25コミュニティのうち、川崎地区と屋生地区が「地域まちづくり協議会」のモデル地区となり、安心・安全で豊かさの持続するまちを住民総意でつくる取り組みを行っています。



屋生地区まちづくり協議会

地域内での課題を地域みんなの力で解決しようとして、従来の地区コミュニティを発展的に解消し、まちづくり協議会として平成25年4月に発足。地域の特長を活かしたまちづくりを進めています。

語り継ぐふるさと

作る人、食べる人の
笑顔が何よこの喜びです。

楽しいことをしながら 亀山を盛り上げたい！

誕生のきっかけは、ちょうどB-1グランプリがやり出した時に、「あのB-1グランプリに出られたらいいね」という思いからでした。まずは、亀山でおいしい物は何かと、今まで食べられていたものの中からピックアップを始めました。その時に、亀山の焼肉店では、味噌ダレを付けたホルモンなどを鉄板焼きにして、食事の締めには焼きうどんをしていたことを思い出したんです。そこから、味噌ダレと焼きうどんを組み合わせるご当地グルメとして作ってみようということになり、具材も女性や子どもも食べやすいように、ホルモンを豚肉に変え、新しい趣向を加えたんです。

目標だったB-1グランプリは、平成23年に「中日本・東海B-1グランプリ in 豊川」でゴールドグランプリを手にすることができ、全国大会にも4年連続で出展しています。また、平成25年には焼きうどんでまちおこしをする市民活動団体を集めて「焼きうどんサミット」を開催するなど、それぞれに得意分野が異なる会員が協力し合うことで活動を続けることができました。これからは、亀山みそ焼きうどんとのコラボ商品の開発や三重県を盛り上げる活動もどんどん考えていきたいですね。

亀山みそ焼きうどん本舗
代表 伊藤 峰子さん

亀山みそ焼きうどん

亀山みそ焼きうどん本舗

亀山をもっと元気にしたいという思いから設立された亀山みそ焼きうどん本舗。現在、会員約20名で、ご当地グルメでまちおこしの祭典！B-1グランプリや県内外のイベントに出店し、亀山のPRや地域の活性化に貢献しています。



切磋琢磨で魅力をアピール 地域の新たな名物に！

始まりは亀山商工会議所の呼びかけで、地域活性化のためにご当地ラーメンを作って、観光を盛り上げていこうということからでした。商工会議所をはじめ、市内のラーメン店や食堂、ゴルフクラブのレストラン、三重県、亀山市が協力し合い、市民が昔から慣れ親しんでいる味噌を使ったラーメンの開発が行われました。平成25年9月から販売が始まり、12月には新作ラーメンを対象にした「ご当地ラーメングランプリ」の初代グランプリに輝くという快挙を成し遂げることができました。

会としては、月1回のラーメン会議と、イベントやお祭りに積極的に参加して亀山ラーメンのPRを行っています。イベント等では、みんなで開発した基本形の亀山ラーメンを提供していますが、普段はそれぞれの店舗が工夫を凝らしたオリジナルの亀山ラーメンを作っています。お互いに味を競い合い、励まし合いながら、亀山の新たな食の魅力としてアピールに取り組んでいます。

現在、市内での認知度も向上していますが、市外の方々にはまだまだ知られていないのが現状です。今後もどんどんアピールを続けて、三重県そして亀山市のまちおこしに貢献し、活性化につながればと考えています。

世界を目指せ！亀山ラーメン会
会長 伊藤 幸夫さん

オリジナル味噌を加えた
牛骨スープを味わってほしい！

亀山ラーメン

亀山ラーメンのコンセプト

亀山ラーメン会のオリジナルブレンド味噌をベースにした牛骨味噌ラーメンであること。麺は、三重県産小麦「ニシノカオリ」を原料にしたものであること。具材には、三重県産きのこ三種（はなびらたけ、はたけしめじ、ひらたけ）を用いること。



世界を目指せ！亀山ラーメン会

地域を盛り上げるために、三重県初のご当地ラーメンを作ろうと、平成25年7月から活動を始めた亀山ラーメン会。現在、10の加盟店で、各店舗オリジナルの亀山ラーメンを味わうことができます。

幻と言われた 紅茶の復活を目指して

緑茶の生産地として知られる亀山ですが、昔は紅茶の産地でもありました。私も父親が紅茶をやったこともあったので、近年は緑茶品種の紅茶をつくらうと挑戦してたんですわ。そんなところ、「亀山で紅茶つくるんやったら、べにほまれをやってみては?」と亀山市長さんに後押しをもらったんです。それで地元の緑茶農家4人と会を結成して、べにほまれの畑を探すことから始めたんです。

最盛期から50年を超え、畑が残っていない可能性もあったんですが、何とか見つけ出し、べにほまれの復活に向けて取り組んでいます。会の名前の「Kiseki」とは、べにほまれの畑が残っていた場所が亀山と関の間だったことから「亀関」という意味と、「奇跡」の復活という意味から名付けました。

会員はみんな緑茶農家なんで、べにほまれと緑茶の時期が重なると作業が難しく、まだまだ摘みとれる量も少ないですが、とにかく、亀山のべにほまれは味・香りともに最高で、こんな紅茶は他にないと思っています。

手探り状態でのスタートでしたが、年々、草取りや茶摘みなど協力してくれる人も増え、味も良くなっています。ゆくゆくは亀山のブランドとして、紅茶が緑茶を引っ張ってくれるようになればええなあと思っています。

亀山 Kiseki の会
代表 駒田 六平さん

絶対を守っていききたい！
亀山のべにほまれだけは

亀山紅茶 「べにほまれ」

亀山 Kiseki の会

昭和40年代まで亀山市内で生産されていた日本最初の紅茶専用品種「べにほまれ」を復活しようと、立ち上がった茶業関係者のグループ。5名の会員を中心に「亀山べにほまれ復活プロジェクト」を発足させ、活動に励んでいます。



美しい坂下の星空を たくさん見てもらいたい

私たち坂下星見の会は、春・夏・秋に定期的な星空観察会や星まつりコンサートなどのイベントを開催するほか、星の講座や移動式プラネタリウムでの出前星空教室などの活動を各地で行っています。

また、星空を見えにくくして、生態系や農産物の成長にも悪影響を及ぼしている「光害」と呼ぶ夜空へ漏れる過剰な光を抑えるための啓発活動もしています。必ずしも暗い環境が良いというわけではありませんが、やはりそこに住む人や生物にとって、安全で快適な光環境を守っていくこと、それもこれからの大切な課題だと思っています。

平成21年には、亀山市が関町坂下の鈴鹿峠自然の家に、生涯学習拠点施設として天文台「童夢」を建設し、翌年完成しました。市の管理ですが、私たちも天文台を案内する運営スタッフとして携わっています。この施設は、坂下の豊かな自然のなかで星空観察ができるだけでなく、天文の話を深め、人とふれあえるコミュニケーションの場となっているんですよ。子どもたちにとっても、日常ではできないことを体験できる貴重な場所になっているんじゃないでしょうか。

これからも、もっとたくさんの人たちに天文を好きになっていただけるよう、自分たちも楽しみながら盛り上げていきたいですね。

坂下星見の会
代表 瀧本 麻須美さん

天文台「童夢」

一緒に観て、喜び合える
それが星空観察の魅力です。



天文台「童夢」

童夢の直径3.5m。設置されている口径40cmのカセグレ式反射望遠鏡は、県内屈指の望遠鏡で、月のクレーターや土星の輪、星雲・星団などを見ることができます。



坂下星見の会

「天文や宇宙をもっと身近に感じてもらい、気軽に触れてもらえる機会をつくりたい」という想いから結成された坂下星見の会。現在、会員29名で、平成23年に環境省「星空の街・おおぞらの街」全国協議会会長賞(天の川賞)を受賞されています。

語り継ぐふるさと

運動を気軽に
楽しんでもらいたい。

運動が得意な人よりも、運動のできない人、これからスポーツをやっていきたい人楽しんでもらおうと始めました。手探りでやってきましたが、子どもたちとも顔見知りになれたり、「運動ができないけど、あそこに入ったらこんな運動もさせてもらえる!」とお母さん方から嬉しい声をいただいたり、そんな声を聞くと活動してきて良かったなあと思いますね。

設立してから5年目。これからは、今の教室を継続しながら、皆さんに「ええなあ、ここは」と言ってもらえるように、中身を改善してより魅力的にして、会員数も増やしていきたいと思っています。また、県内の他地域のスポーツクラブとも友好を広げて、交流が深まっていければいいですね。

NPO法人 Let's スポーツ わくわくらぶ
代表 上田 佳士さん



NPO法人 Let's スポーツ わくわくらぶ
平成 22年 2月、「みんなで気軽に楽しくスポーツ!仲間と笑顔で交流を!健康で元気にいつまでも!」を目標に設立。現在、小学生から80歳代まで約280名の会員が在籍。スイミング、アクアビクス、テニス、ヨガ、カヌーなど、さまざまな教室を楽しんでいます。

総合型地域スポーツクラブ

私たちの主な活動としては、ヨガ教室などをはじめ、ユニカルという室内でできるカーリングや、スポンジボールのシャトルを使ったファミリーバドミントンなど、ニュースポーツの教室を実施しています。誰もが気軽に楽しみながら、仲間づくりや交流の場になっているのも一つの魅力です。

これから取り組みたいこととしては、より多く子どもたちに関わってもらおうということです。技術や経験がなくても楽しめるニュースポーツで、特に運動が苦手な子の運動能力を高めてあげたいですね。小学生を対象としたノルディックウォーキング体験イベントやニーズに応えたいような教室を開催し、皆さんがスポーツに親しむきっかけにできたらいいと思います。

ENJOY スポーツ かめ亀クラブ
会長 小林 茂さん

誰もが楽しめる
スポーツを広めたい。

ENJOY スポーツ かめ亀クラブ
平成 26年 2月、障がいの有無に関わらず「いつでも、どこでも、いつまでも」楽しく安全にスポーツに親しみ、地域や家族の絆づくりに貢献することを目的に設立。現在、小学生から70歳くらいまでの幅広い会員がスポーツを楽しんでいます。



一番の願いは、学校を核に
地域が盛り上がりつついくことです。

地域に開かれ 支えられる学校づくり

加太地区では少子化の流れの中、年々児童数が減少しています。このような状況で学校と地域が手を取りあって教育活動を進めていくことが重要な課題となってきました。そこで地域の人にこれまで以上に情報発信を密にして、学校に関心をもってもらうと始めたのが、地域・保護者・学校が一体となって子どもたちを育む環境づくりを進める文部科学省のコミュニティ・スクール推進事業でした。

これまで、川をせき止めてマスを放流して遊ぶ「川遊び」や、音楽が好きな人が集い活動する「つむぎコーラス」、地域の人や保護者も参加して行われる田植えの時の「どろんこ集会」、地域と小学校が一緒に開催する「運動会」など、子どもたちと地域の人と一緒にふれあえるイベントを中心に取り組んできました。最近では、PTAとコミュニティ・スクールが一体になって活動を行うようになり、地域のいろんな人が協力してくれるようになりましたし、嬉しいことにさまざまな行事に母親だけではなく父親も参加してくれるようになり、さらにつながりの輪が広がったのではないかと感じています。

今後も学校を核に、地域とより良い関係を築いていくために、親睦を深めながら地域が盛り上がりつついけばいいですね。

加太小学校コミュニティ・スクール
つむぎ学校運営協議会
会長 村田 紘一さん

コミュニティ・スクール

加太小学校コミュニティ・スクール

地域に支えられる学校づくりを目指し、平成 24 年度に正式に発足。現在、加太小学校コミュニティ・スクールは、より強く結ばれた教育活動やまちづくり、人づくりを紡ぐことをイメージして「つむぎ」という名称で活動しています。

平成 26年 12月には、「つむぎ学校運営協議会」の活動が評価され、文部科学大臣表彰を受けました。

語り継ぐふるさと

観光につながる 生きたまちなみ保存

私たち保存会は、関宿のまちなみ保存の大切さを伝える活動をしています。観光振興は目的にしていませんが、きちんとした保存活動をしていけば、人は必ず見に来てくれます。観光は後からついてくるという考えで、この30年間保存活動を行ってきました。

保存活動だけでなく、関宿を大事にする心を子どもたちに持ってほしい、観光で訪れた人にも知ってもらいたい、という思いから「関宿かるた」を作りました。まちのあちこちに掛かった関宿にちなんだ句を、観光客

の方が読んでいたりお母さんが子どもに説明していたりする姿を見ると、本当に嬉しいです。また、雨の日に来ていただいた方に番傘を貸し出し、関宿を歩いてもらう「関宿番傘プロジェクト」にも取り組んでいます。番傘をさして歩くのも楽しいし、さして歩く人が関宿の風情にもなります。雨の関宿ならではの景色にしていきたいです。

国の重要伝統的建造物群保存地区である関宿は、実際に人が生活しながら保存を進めている場所です。ここ10年でまちの営みを見て楽しむ観光客が増えていることを考えると、まちなみ保存がうまく進んでいるのだと思います。子どもたちが大人になっても誇りに思える関宿にしていきたいですね。

NPO 東海関宿まちなみ保存会
服部 亜樹さん

子どもたちが大切に思う
関宿にしたいです。

まちづくり観光

NPO 東海関宿まちなみ保存会

関宿のまちなみ保存の取り組みを始めた昭和55年に設立。月1回の定例会や、会員または外部講師による公開講座、会報「東海関宿」の発行を手がけ、まちなみ保存の普及・啓発に取り組んでいます。



癒やしの場、憩いの場として たくさんの方に来てもらいたい

私ども石水溪観光協会では、4月に野登山、仙ヶ岳、鬼ヶ牙、臼杵山、雨引山という5つの山の山開き、夏には小学3年生から中学生までを対象にした石水溪キャンプ教室、10月には石水溪まつり、年間を通しての防犯パトロールなどの活動を行っています。

今年で7回目となった石水溪まつりは、マスカみや宝探し、ダンスや音楽、出店など大人から子どもまで楽しめるイベントで、内容もどんどん充実してきて、子どもたちも200人くらい来てくれました。

他には、平成13年から「みつまたの森ウォーキング」という全国でも珍しいミツマタという花が見られるツアーをしていて、平成25年からはミツマタの植樹のツアーもやっております。植樹は3ヘクタールの土地に5,000本のミツマタを植えようと5年計画で考えていて、5年後には「みつまたの森公園」を作って、たくさんの方に来てもらいたいと思っています。

また、近くには日本の棚田百選に認定されている坂本棚田もありますし、水も本当にきれいでアマゴやイワナだけでなく、ナマズの一種で国の天然記念物にも指定されているネコギギもおるんです。この人の力の及ばない豊かな自然を、ぜひ皆さんにも感じてもらいたいですわ。

石水溪観光協会
会長 川戸 真一さん

石水溪の魅力は
手付かずの自然です。

まちづくり観光

亀山市では、平成21年3月に「亀山市観光振興ビジョン」を策定し、「暮らしたいまちこそ、訪れたいまち」という考えのもと、住んでいる人と訪れた人が共に満足し共存できる「まちづくり観光」を目指しています。



石水溪観光協会

昭和32年に設立。鈴鹿山脈に連なる仙ヶ岳、野登山をはじめとする5つの山と5つの谷川を有し、野鳥、昆虫、天然林、植物群落などの豊富な自然環境を誇る石水溪および、東海自然歩道の維持管理業務を行っています。

語り継ぐふるさと

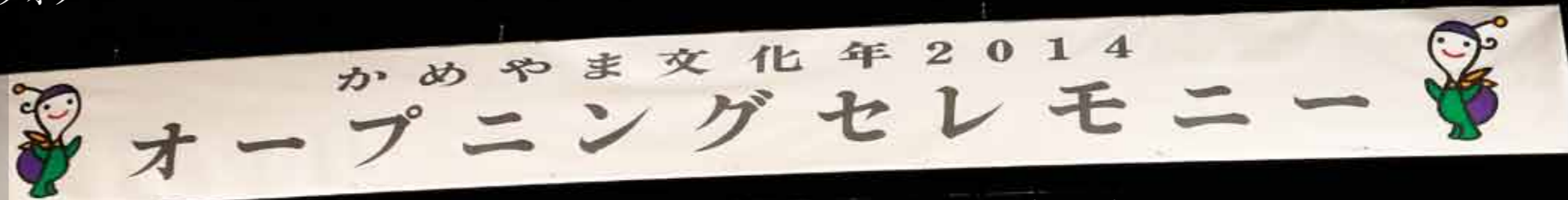
文化の見える化プロジェクト かめやま文化年 2014 をキックオフ

亀山市は、新市合併から10年の節目を迎えました。その中から、都市が持続的に成長し、市民の輝く「クオリティ・オブ・ライフ（暮らしの質）」を実現するためには、文化が持つ魅力ある社会づくりを推進する力、いわゆる「文化力」が重要な要素の一つであると考えました。

文化は、私たちの心に感動と創造の喜びや潤いを与え、豊かな人間性を育む源泉となります。とりわけ、伝統的な歴史・風土・行事、魅力的な景観・産業、個性的な生活習慣・教育などは、まちのアイデンティティ（独自性・同一性）を形成し、市民の愛着と誇りを育むことにもつながります。一方、これら今日までに培われた本市固有の文化資源を磨き上げるとともに、新たな文化・価値・人材を生み出すこともまた重要です。

私たちは、これらを背景に「亀山市文化振興ビジョン」を策定し、「文化の見える化プロジェクト」を掲げました。その具現化に向けて、今後3年毎に「みつめる・つながる・かがやく」を基本テーマに、文化に関する各分野を包括的・継続的に高めるためのアクション・イヤー「かめやま文化年」を設け、プロジェクトを「リーディング事業」「メイン事業」「関連事業」に分けてそれぞれに展開しています。

亀山市
かめやま文化年 2014 運営委員会



キラリと輝くまちの実現と
市民の幸福実感の向上を目指して。

リーディング事業

“かめやま文化年 2014”をリードする「みつめる」「つながる」「かがやく」の要素を備える3つの事業を開催。



アート亀山トリエンナーレ



関宿重伝建関連事業



市民ミュージカル

メイン事業

オープニング・フィナーレのほか、キーワード「みつめる」事業として、「食」「産業」「スポーツ・健康」の3つの文化を主軸とした事業を開催。



食（かめやま茶学校）



産業（プロジェクトマップ）



スポーツ・健康
（ラジオ体操公開生中継）

亀山市文化大使

亀山市にゆかりがあり、文学、芸術、スポーツ、芸能など文化的な分野で活躍されている方々が文化大使に就任されました。

川戸 佳さん

東京大学大学院教授、理学博士。1950年亀山市生まれ。脳海馬の記憶学習を専門分野とし、老化による神経の劣化とその回復法やストレスの記憶への影響の研究に取り組む。

寺岡 清高さん

大阪交響楽団常任指揮者。1966年福岡県生まれ。2000年ミトロプーロス国際指揮者コンクール優勝。ヨーロッパ各国のオーケストラへ客演。新日本フィルハーモニー交響楽団等で指揮。

原 正美さん

作曲家。1947年亀山市生まれ。フリーの作曲家としてさまざまな分野での音楽を担当し、文部大臣賞などの受賞作品多数。旧亀山市市制50周年では、組曲「雪月花かめやま」を作曲。

小嶋 希恵さん

元宝塚歌劇団雪組。1961年長野県生まれ。宝塚歌劇団卒業後、宝塚音楽学校、劇団四季の受験校としてミュージカルスクールを設立。多数の宝塚トップスター等を輩出。

林家 菊丸さん

1974年亀山市生まれ。古典落語から自作落語まで幅広くこなし、特に女性の演じ方に定評がある。9月に大名跡「林家菊丸」を115年ぶりに襲名。

真路 まなみさん

シャンソン歌手。1960年亀山市生まれ。日仏シャンソン協会特別歌手会員として、フランスでの公演も行う。老舗書店の現役部長にしてシャンソン歌手という異色シンガー。

上田 秀洋さん

信州大学名誉教授、画家。1947年亀山市生まれ。東京芸術大学卒業、同大学院美術研究科修了。個展17回、第一美術展等のグループ展を開催。絵画コンクール等数々の審査員等を務める。

豊田 清さん

読売巨人軍二軍投手コーチ。1971年亀山市生まれ。1993年西武ライオンズ入団。豪速球とち密なコントロールを武器に最優秀救援投手賞を2度受賞。読売巨人軍移籍後も3度の優勝に貢献。

かめやま文化年

かめやま文化年 2014

暮らしの中の文化に気づき、再発見できるきっかけとなるよう、「みつめる」をテーマにさまざまな事業に取り組む「かめやま文化年 2014」。平成26年5月10日、市文化会館でオープニングセレモニーを開催し、本格的にスタートしました。



イメージキャラクター
カメのぶんちゃん

子どもたちが興味を持つことで
防災の輪が広がると嬉しいです。

メンバーが持つ防災知識を 地域のために役立てたい

私たちは、子どもたちを対象に防災活動および、地域への防災に関する出前講座、資機材の点検・指導などのボランティア活動を行っています。平成22年度から井田川小学校で、「子ども防災士」の育成を始めました。

防災かるたを使ってゲーム感覚で防災について学んだり、お家の人と話し合っただけで家族で防災を学んだりして、最後に「子ども防災士」として認定する取り組みです。今までに、約120人の「子ども防災士」が誕生しました。子どもたちに防災意識を持ってもらうことで、大人や地域の人たちにも、つながっていきますからね。

地域活動では防災マップのジグソーパズルや防災すごろく、HUG（ハグ）と呼ばれる避難所運営ゲームで学んでもらっています。ジグソーパズルなどの遊びながらの学びは、「ここが危険」「ここが役立つところ」など、みんなで考え、お互いに地域の防災について知ってもらえる良いきっかけとなっています。

このような活動が評価されて、平成24年に「みえの防災大賞」、平成26年に「eコミマップ防災コンテスト優秀賞」を受賞できました。今後は、地震だけでなく、風水害等での対応やいろいろな災害に対する障がいをお持ちの方への啓蒙活動などにも、力を入れていきたいですね。

かめやま防災ネットワーク
しみず いさむ
会長 清水 勇さん

地域防災活動

かめやま防災ネットワーク

平成19年に、亀山市内在住で、「みえ防災コーディネーター」の資格を持ったメンバーが集まって設立した地域防災のボランティア活動団体。現在、会員は約25名で、市内の各地域で子ども防災士の育成や防災講座など、さまざまな活動に取り組んでいます。



医療発展につながる 家庭医の育成を目指して

亀山地域医療学講座では、市民の皆さんにとって、最も良い医療は何かということテーマに研究しています。今までの研究で、亀山の特産であるお茶がアレルギー性鼻炎と食物アレルギーの抑制に関連があったということや、住民の方への調査から、患者さんの立場に立った医療を行う「家庭医療」が重要だということなどが分かってきました。

また、市立医療センターで三重大学の医学部学生の実習を受け入れてもらい、地域医療を現場で学びながら、患者さんの視点で医療を見ることが身に付くよう教育・育成に力を入れています。卒業後も家庭医等を目指す人には「三重大学家庭医療学プログラム」の後期研修で、地域に役に立つ医師となるように研修医の指導を実施しています。

このような活動から、市立医療センターで働きたいという学生が増えてきていて、若い人たちも家庭医療の良さを感じてくれているのかなと思います。これらの育成の成果は、将来的に亀山市をはじめ医療の発展につながっていくと考えています。

今後は在宅医療をもっと充実させるために、市立医療センターがどうあるべきか、また医師側・住民側の障壁が何か等の調査を進めていきたいですね。「大きな夢と情熱」を持って、より良い医療の実現に向けて取り組んでいきたいです。

三重大学医学部 亀山地域医療学講座
たけむら ようすけ
教授 竹村 洋典さん

亀山市に最適な
医療の確立に向けて取り組んでいます。



亀山地域医療学講座

亀山地域医療学講座

全国に先駆け、三重大学が取り組んでいる地域医療の教育と研究の取り組みで、平成23年6月に県内で初めて講座を設置。亀山市から三重大学の寄附により市立医療センターへ医師が派遣され、地域医療の教育や研究、医療体制の確立に向けて取り組んでいます。



故郷の魅力に 思いを馳せる。

亀山のまちを語るには、道との関わりを知ることから始まる。
壬申の乱の舞台となった峠道、
宿場町とともに参勤交代やおかげ参りで賑わった東海道、
かの秀吉や家康が通り抜けたといわれる安楽峠や加太峠。
道は人や物を運びつつ、文化の交流を育む場所でもあった。
いま亀山のまちを訪ね歩けば、
歴史ある文化財や伝統行事という古の風景や
自然・風土を生かした魅力の数々に出会うだろう。

Story 1

歴史文化に彩られた
まちなみと街道

Story 2

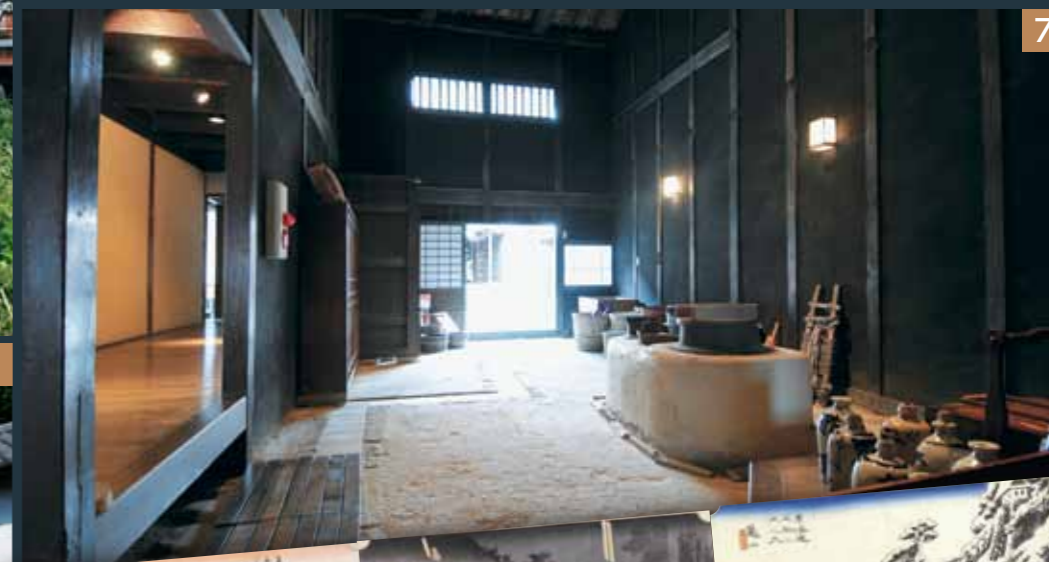
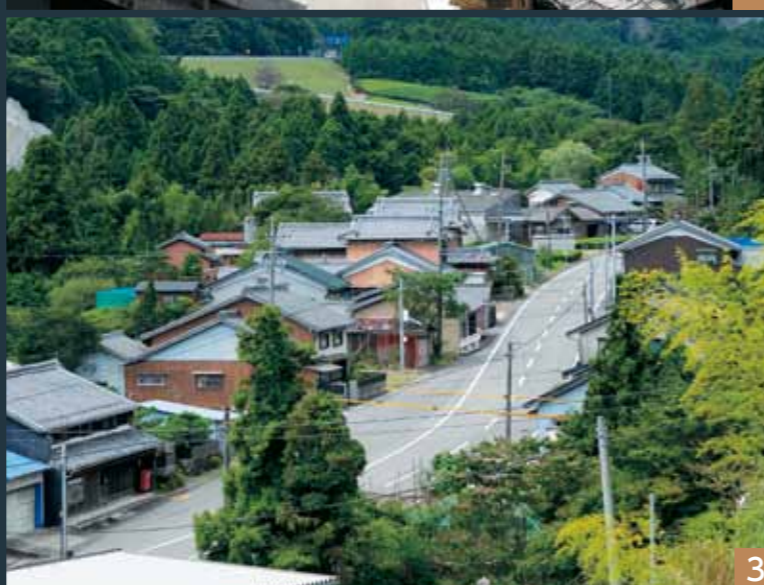
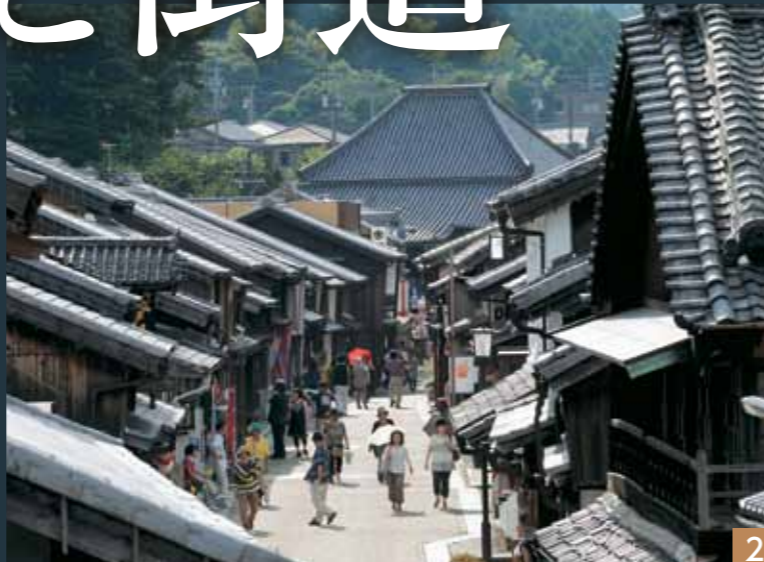
伝統と風土が紡ぐ
多彩な祭り

Story 3

水と緑がきらめく
豊かな自然

歴史文化に彩られた まちなみと街道

古代から現代に至るまで、日本の文化や経済の発展に大きな影響をもたらした東海道。東海道五十三次の46番目の宿場町・亀山宿は、亀山城の城下町として栄えた場所で、街道沿いには、県内の東海道で唯一原形をとどめる野村一里塚が残されています。東の追分から西の追分まで、約1.8kmの街道沿いに町家が軒を連ねた47番目の宿場町・関宿は、旧東海道で唯一歴史的な町並みが残ることから、昭和59年に国の重要伝統的建造物群保存地区に選定されました。また、東の箱根峠と比べられるほど東海道の旅の難所であった鈴鹿峠を越える旅人たちで賑わいをみせた48番目の宿場町・坂下宿には、峠越えの際に唄ったとされる正調鈴鹿馬子唄が受け継がれています。このように亀山市内を通った東海道の道筋には、今もそれぞれに宿場町の面影を残しているのです。



古代の歴史が息づく亀山 日本武尊能褒野墓

亀山は東西を結ぶ地であったことから、さまざまな歴史に登場します。古事記や日本書紀には、英雄伝説の主人公として登場する日本武尊(ヤマトタケルノミコト)が、東国から大和国へ帰る途中に病となり、「ノボノ」で亡くなったといわれています。田村町にある能褒野王塚古墳は、4世紀末の築造と考えられる前方後円墳で、明治12年に国により「日本武尊能褒野墓」と定められ、現在も宮内庁により管理されています。

伝統と風土が紡ぐ 多彩な祭り

歴史ある亀山のまちに彩りを添える数々の祭り。
 絢爛豪華な4基の山車が関宿の古い街並みを練り歩き、幻想的な雰囲気をつくり出す関宿祇園夏まつり。
 大名行列や花魁道中など、東海道の往時の賑わいを再現した時代行列が練り広げられる東海道関宿街道まつり。
 祭神スサノオノミコトの荒魂をなぐさめるために始まったという忍山神社の傘鉾神事に、
 雨乞いなどの踊りとして市内8つの地区に受け継がれ、勇壮に、優雅に、そして力強く舞われるかんこ踊り、
 100年以上の歴史を持つ亀山大市のほか、夏の夜を盛り上げる亀山市納涼大会や関宿納涼花火大会など、
 古くから続く伝統的な祭りに、地域の特色を活かして新しく生み出されてきた祭りが加わり、
 まちをより魅力的なものにしています。



▶ 動画を見る 東海道関宿街道まつり



▶ 動画を見る 関宿納涼花火大会



▶ 動画を見る 亀山市納涼大会



傘鉾(市指定無形民俗文化財)



加太のかんこ踊り(県指定無形民俗文化財)



亀山大市



▶ 動画を見る 関宿祇園夏まつり

(市指定無形民俗文化財)



関宿に文化年間から伝わる 関の山車

かつては関西五大祭のひとつとされ、最盛期の江戸後期には16基もの山車が、横幕・見送幕・提灯を豪華に飾りつけて華美を競い合った「関の山車」。見どころは「舞台まわし」と呼ばれる山車の回転で、『もうこれが精一杯』という意味で用いられる『関の山』という言葉は、この関の山車が狭い宿内の家並みの軒先をかすめ巡行すること、また、これ以上豪華な山車はないということが語源となっています。

亀山の魅力を紐解く

水と緑がきらめく 豊かな自然

大部分が鈴鹿国定公園に指定されている鈴鹿山脈や、多くの自然と景勝地をもつ亀山市。鈴鹿川やその支流安楽川の源流で白い花崗岩の間を縫って清流が流れる石水溪をはじめ、落差約100mの鈴鹿山系最大の滝である矢原川不動滝や、古くから雨乞いの山として知られる錫杖ヶ岳、地元で「ののぼりさん」と親しまれる野登山、法面が石積みの珍しい坂本棚田や、怪岩・奇岩が多い羽黒山、そして、多彩なスポットが点在する東海自然歩道など、豊かな自然はさまざまな表情を見せてくれています。また、春はみつまた・桜・しゃくなげ・藤、夏はあじさい・花しょうぶ、秋はコスモス・イチョウ・紅葉、そして冬には雪化粧をした亀山城の雪花と、四季を彩る花々もまちを華やかにしています。季節ごとに見られる豊かな自然の風景は、訪れる人にひと時の安らぎと笑顔を与えてくれます。



石水溪



旧亀山城多門櫓



野登山ブナ林



錫杖ヶ岳



関富士



加太不動滝



坂本棚田



みつまたの森



正法寺山荘跡



菖蒲園



自然の中に残る 歴史街道

交通の要衝であった亀山市には東海道だけでなく、さまざまな街道が通っていました。東海道関宿「西の追分」から加太峠を越えて伊賀を抜け、奈良に至る大和街道。関町古厩から鈴鹿市岸岡町までの約16kmを結んだ金王道。石水溪から滋賀県の山女原に通じる安楽越え。これらの街道には、今なおかつての面影が残されています。

小さくとも キラリと輝くまちを めざして。

合併から10年、「希望と信頼の市政」を基本理念に、
将来へつなげ輝けるよう、様々な取り組みを行ってきました。
これからも、未来への継承を図るため、
歴史や文化、産業などの地域資源にも磨きをかけ、
市民の幸福実感性が向上するまちづくりに取り組んでいきます。

平成27年1月11日、亀山市は市制施行10周年の節目を迎えました。
幸い本市は、この激動の10年間、多くの皆様のお力添えにより、新市の一体感の醸成と財政健全性を確保し、着実な歩みを刻んでまいりました。私たちは、この10年の歩みを礎に、少子超高齢社会の進展、災害に強いまちづくり、地域経済・雇用の活性化、今後の厳しい財政局面への備えなどの政策課題を克服するべく、次なるステージへ、怯むことなき挑戦をしなければなりません。

また、本市最大の強みは、自助・共助を支える「市民力」に尽きます。5万市民の「愛着と誇り」そして「幸福実感」が向上し、そのことがまた世代を超えた市民の参画協働への厚みとなって、持続可能な地域社会へつなげると確信いたします。今と未来を見つめる、本市の特色ある環境・健康・教育・文化などの政策は、人とひとが支えあう地域の絆の上にこそ実を結ぶものと考えます。

私は、これらまちを形づくる多彩な要素が上手く結びついた「高い結晶性」による「小さくともキラリと輝くまち・亀山」の実現への決意を新たにいたします。地方自治体の真価が問われる今、いかなる環境変化にも市民の英知とともに適応し、未来を切り拓いてまいりますので、今後とも一層の協働をお願い申し上げます。

この市勢要覧が、亀山市の「新たな進化への道標」となりますことを祈念いたします。



亀山市長 西村 義之

地域の持続的発展を支える産業の振興へ

内陸工業都市として発展してきた亀山市。伝統と最先端の技術が集積する亀山のものづくりは、さらなる進化を遂げ地域に活力を与えています。

多様な産業が集積

中部・関西圏の中間に位置する地理的優位性や抜群の交通インフラといった強みを活かし、内陸工業都市として発展を遂げてきた亀山市。ローソクに代表される地場産業に加え、液晶関連産業や自動車関連産業などの集積が図られ、ものづくりは市の産業の特長となっています。

充実した交通ネットワークと豊かな自然に恵まれた環境は、生産拠点として飛躍する絶好のロケーションで、今後も多様な産業の集積が期待されています。

亀山市では、産業振興奨励制度により、大企業等の誘致や中小企業を含む既存企業の事業展開を支援するとともに、亀山商工会議所を中心とした創業支援ネットワーク「カメヤマ創業アシスト」では、総合的な創業相談やスキルアップの場の提供を行うなど、起業家の夢を叶える応援にも力を入れています。

また、市内商業者の販売促進力の強化や市内商業の魅力づくりにつなげていくため、市内商業団体等の意欲ある取り組みを支援しています。



創業セミナー「亀山創業塾」

市内で創業を計画している人が、マーケティングやビジネスプランの立て方を学びます。セミナーを受講後、市内でお店などを開業する人もいます。



亀山100円商店街

東町・本町商店街などで、参加店が100円で豊富な商品やサービスを提供。定期的開催され多くの人でにぎわいます。

伝統産業「ローソク」



ローソクの出荷量で日本一を誇る亀山市。誕生日、結婚式など人生のさまざまな節目には、いつもローソクの灯りがあります。

亀山でのローソクの歴史は、昭和2年に、谷川兵三郎がこの亀山市に興した「谷川蠟燭製造所」に始まり、歴史は80年を超え、亀山のローソクは、その品質を世界に認められ大きく成長しました。

現在では、新しいアイデアや発想を取り入れ、環境に配慮したローソクや線香の開発が進められています。

神仏用ローソクや線香のほか、アートキャンドル、アロマキャンドル、燭台などのオリジナル開発や暮らしを豊かにするさまざまなライフスタイル雑貨の輸入など、ローソクの枠を超え、多岐にわたる製品が世に送り出されています。

また、全国的な広がりを見せている100万人のキャンドルナイトのイベントへの協賛など、ローソクを通じて社会に貢献するさまざまな活動は、亀山市の伝統産業として、この亀山の地域から発信されています。





交流の拠点として 発展するまちの実現へ

東西を結ぶ交通の要衝として古くから栄えてきた亀山市。
地理的な利点をさらに活かし、市民と来訪者が交流する拠点として
人々に親しまれるまちづくりに取り組んでいます。

リニア中央新幹線の 亀山駅誘致



リニア中央新幹線は、平成 39 年に東京・名古屋間、平成 57 年に東京・大阪間の開業を目指し、東京・名古屋間の工事実施計画が認可されるなど、開業に向けた取り組みが進められています。開業すれば、東京・名古屋間を 40 分、東京・大阪間を 67 分で結び、利便性の向上や、都市間の交流が活発化し、さまざまな経済効果が期待できます。亀山市では、官・民組織である「リニア中央新幹線・JR 複線電化推進亀山市民会議」を中心に停車駅誘致に向けた積極的な運動を展開。また、停車駅周辺の整備の財源として、基金の積立を行っています。

県内屈指の交通要衝の地

中部圏と近畿圏を結ぶ交通の要である亀山市は、市内を通過する国道 1 号、名阪国道、東名阪自動車道、伊勢自動車道が亀山インターチェンジで結節するアクセスに恵まれた環境にあります。平成 20 年には新名神高速道路（亀山 JCT～草津田上 JCT）が開通し、渡り線を通して東名阪自動車道に接続されたことにより、広域幹線道路ネットワークは飛躍的に拡充しました。また、平成 24 年に新名神高速道路亀山西ジャン

クションのフルジャンクション化が事業許可され、さらなる利便性の向上が見込まれています。今後は、東名阪自動車道の慢性的な交通渋滞を解消するための新名神高速道路三重県区間（亀山・四日市間）の早期開通や、鈴鹿亀山道路の整備が求められています。また、市街地の移動時間を短縮し回遊性を高めるため、市内幹線道路の整備を進めるとともに、防災機能や地域の安全性が向上するよう生活道路の改良を行っています。

公共交通機関については、鉄道、バス等の連携強化を図るとともに、バス等の地域生活交通については、新たな運行形態も組み入れた「亀山市地域公共交通計画」に基づき、段階的に再編を進めています。また、東京と大阪を結ぶリニア中央新幹線構想での停車駅の誘致を推進するため、「リニア中央新幹線・JR 複線電化推進亀山市民会議」を通じた誘致活動を行っています。



地域と行政による JR 井田川駅前の整備

市の東の玄関口である JR 井田川駅。近くに住宅地があり通勤や通学の利用者も多く、地域と行政がワークショップ形式で話し合いを積み重ねながら、駅前の整備が進められました。平成 24 年に整備が完了し、バスが乗り入れるロータリーや待合施設、バス停などが設置されました。



市道と賀白川線「忍山大橋」

市の産業の発展や市民生活の基幹を担う重要な道路ネットワークの構築に向けた幹線道路を整備するため、合併特例債を活用して市道と賀白川線の工事をを行い、平成 26 年に忍山大橋を含む南側区間の供用を開始しました。



さわやか号

平成 12 年に運行を開始した市自主運行バス「さわやか号」（1 乗車：中学生以上 100 円）は、市中心部の公共施設や商業地域等への身近な交通手段として、市民の皆さんに利用されています。





愛着と誇りを育む 農業の振興へ

近年、農家数の減少や農業者の高齢化など、農業を取り巻く情勢が年々厳しさを増すなかで、農業経営の安定に向けたさまざまな事業に取り組んでいます。

亀山茶ペットボトル



「亀山茶ペットボトル」は、亀山茶の普及を進めるため、市内の各種団体などで組織した「亀山茶ブランド化推進協議会」が研究開発。亀山茶の特徴を活かすため、普通のペットボトルのお茶より濃い味わいとなっています。

新茶の季節には、キャップに内蔵された初摘みの新茶粉末をペットボトル内に落とし込み、よく振って混ぜて飲む、数量限定タイプも登場しています。

活力あふれる農業へ

年々減少する農業従事者数に歯止めをかけるため、亀山市では、定年退職者や若者、女性といった多様な人材が幅広く農業に参入できるよう、新規就農者の育成や支援に力を入れています。また、認定農業者や集落営農組織の育成・法人化、農業生産基盤や水利施設等の整備を進めるなど、農業経営の安定化を目指しています。

多様な農作物を安定的に供給して消費拡大を促進するため、地産地消のイベント開催や農産物直売所などの拠点づくりを進め、生産者を支援する取り組みも行っています。さらに茶生産においては、亀山茶の地域ブランド化に向けて、生産者等と連携し、良質茶の産地形成に努めています。

さらに、農業者や農業者団体と連携し、お茶や自然薯、和紅茶などの地域特産品の消費拡大やPRにも力を入れています。また、新たな地域特産品となる農産物の発掘、育成、販売拡大を行う農業者を支援し、地域農業の活性化に取り組んでいます。

ほかにも、市民農園を活用するなど、市民が農業や農村に親しむ場づくりを目指しています。



地元農産物の直売所 「亀の市」

「亀の市」や「鈴鹿関宿朝市まめぞろい」など市内4カ所で地元農産物の直売所が開設されています。

地元農産物の特産品 「鹿伏兎山脈グループ」

「鹿伏兎山脈グループ」では、加太の特産品を作り地域の活性化を図ろうと活動しています。同グループの「霧余子の会」が丹精を込めて栽培した自然薯は、「みえの安心食材」に認定されています。



エコシティの実現と自然との共生へ

廃棄物の最終処分量・ゼロを実現するなど、総合環境センターを拠点とした環境施策を積極的に進め、産学民官連携による環境学習の推進や自然公園の整備等を通じてエコシティの実現を目指しています。



循環型社会の構築と自然環境の保全

亀山市では、ごみの再資源化や再生利用を推進するなど、環境に配慮したシステムで循環型社会の構築に取り組んでいます。

総合環境センターのごみ溶融処理施設では、多様なごみの一括処理や、再資源化を行っています。さらに、旧最終処分場に埋め立てられたごみを掘り起こして溶融処理をする取り組みも実施しています。

省エネ・創エネにおいては、市民の皆さんが取り組む身近な環境活動にポイントを付与し、地球環境にやさしい商品と引き換えることができる環境活動ポイント制度（AKP：オール亀山ポイント）を平成26年度にスタートしました。

市域の約63%を占めている森林をはじめとする豊かな自然環境を、健全な状態で次世代へ引き継ぐために、森林を適正に管理する森林環境創造事業を推進。また、森林公園「やまびこ」や亀山里山公園「みちくさ」などでの環境学習等を通じて、森林・里山の重要性や自然環境保全に対する意識を啓発するとともに、管理や活用を進めるための団体の育成・支援を行っています。



かめやま会故の森環境整備活動

市民・事業者・行政が協働した協議会を組織し、関町市瀬地内の市有林約8haの整備と併せて、木工教室などの森と親しむ体験活動を行っています。



亀山市民大学キラリ

産学民官の連携により発足した亀山市総合環境研究センターでは、環境・文化・健康をテーマとした「亀山市民大学キラリ」を開講し、地域で活躍できる人材を育成しています。

最終処分量・ゼロと持続可能なごみ処理



総合環境センターごみ溶融処理施設では、日常発生するごみに加えて旧最終処分場の掘り起こしごみ等の多様なごみを約1,800度の高温で一括処理し、有害な排ガスの発生を抑制するなど環境への負荷の低減に努めています。

溶融処理後に発生する溶融物（スラグ・メタル）は資源物として再利用され、また、排ガスに含まれる塵を集じん・ろ過した「飛灰」についても、「山元還元」という方式により亜鉛などの重金属を抽出し、再資源化を行っています。

これにより、亀山市では、ごみの処理工程において、ごみの埋め立てによる最終処分量・ゼロを実現しました。

また、施設の主要な設備・機器の改良により延命化を行い、施設から排出される二酸化炭素の削減と持続可能なごみ処理を進めています。



旧最終処分場のごみの掘り起こし



誰もがいきいきと暮らせるまちの実現へ

健康都市連合に加盟している亀山市。健康・医療・福祉の機能が連携し、健やかで幸福に暮らし続けられる、人にやさしい健康都市づくりを進めています。

健康都市連合に加盟



WHO（世界保健機関）では、健康を個人の責任のみとしてとらえるのではなく、都市の環境そのものを健康にしようとする「健康都市」という考え方を提唱しています。亀山市は、健康都市の実現に向け取り組んでいる都市の国際ネットワークである「健康都市連合」に、平成22年7月、三重県の自治体として初めて加盟しました。亀山市も「健康都市」の考え方を取り入れ、市民の健康に関する課題への取り組みを強化し、市民と行政が一緒になった健康なまちづくりを展開しています。

健康・医療・福祉の連携

市民の健康を守り健康寿命を延ばしていくため、亀山市は健康都市連合に加盟し、健康都市の考えを踏まえた「亀山市食育推進・健康増進計画」を策定。健康で生きがいのある充実した生活ができるよう、市民・地域・行政が協働・連携しながら、健康文化のまちづくりを進めています。健康・医療・福祉が連携した総合窓口である総合保健福祉センター「あいあい」を拠

点に、各種検診・相談や、赤ちゃん・高齢者の訪問など、ライフステージに応じた保健サービスを実施し、生涯を通じた健康づくりを支援しています。

地域医療の核となる市立医療センターでは、亀山医師会をはじめとする地域の医療機関や近隣の二次医療機関等と連携・協力をしながら、地域医療体制の確保に努めています。市民に良質な医療を提供するため、施設・医療設備の整備や、入院、外来等の診療体制を充実させています。

また、亀山地域包括支援センター「きずな」を核とした、高齢者の相談、支援、介護予防など、高齢者の包括的・継続的なケアに取り組んでいます。

障がい者の自立支援では、就業機会を拡充するために、就労の場を提供する事業者が社会的事業所を開設するための支援を行っています。



介護予防教室

高齢者が健康寿命を延ばし、地域で生きがいを持って生活ができるようにするため、要支援・要介護状態に移行しないように、介護予防教室を開催しています。



地域とのつながりやふれあいを築く「サロン活動」

茶話会やレクリエーションなど、気軽に立ち寄れるサロン活動を通じた地域での交流・見守り活動が行われています。市では出前講座などで、介護予防に向けた取り組みを支援しています。



市立医療センター



総合保健福祉センター「あいあい」

子育て家庭を応援 支援体制の充実へ

子どもは「未来の夢」、「次世代の希望」。子どもを安心して産み育てられる、子育て家庭にやさしい環境づくりに取り組んでいます。



子育て支援の“亀山モデル” ～とぎれない子どもの育ち支援～



0歳から18歳までの子どもがとぎれない支援を受けて育っていくために、保健・福祉・教育・医療のネットワークで支援できる「ワンストップ窓口」の構築を目指し、平成17年に設置された「子ども総合センター 子ども支援室」。臨床心理士・保健師・保育士・教員・家庭相談員・女性相談員・心理相談員などが、子どもの育ちや発達、子育てやしつけについての相談やアドバイスのほか、保育所・幼稚園・学校などの関係機関への働きかけも積極的に行い、子どもの成長を支援しています。先進的な取り組みとして注目を集め、子育て支援の“亀山モデル”といわれています。

夢や希望を抱ける子育て

亀山市では、「子ども総合センター」を総合保健福祉センター「あいあい」に設置し、保育所などの就学前児童の教育・保育のほかに、専門スタッフが子育てのサポートや相談に応じるなど、0歳から18歳までの子どもとその家庭を支援しています。

また、妊婦教室やパパ・ママ教室、乳幼児健康診査や赤ちゃん訪問、育児相談など、さまざまなサー

ビスを実施しています。そのほか、親子が安心して遊べる場や子育て情報を提供する「子育て支援センター」は、たくさんの親子が利用しています。

保育所では、延長保育や休日保育、一時預かりなどを実施し、仕事と子育てを両立したい子育て家庭を支援しています。また、保育所に入所できない待機児童の緊急的な受け入れと、市立医療センターの院内保育所の機能とを併せ持つ待機児童館「ばんび」を平成24年度から開設し、待機児童対策に努めています。

さらに、中学校卒業までの子どもの医療費の無料化を行い、子育て家庭の経済的負担を軽減しています。



療育相談事業

言葉や身体機能など、子どもの課題に合わせて訓練的な要素を取り入れた遊びをもとに、意欲を高めながら発達を促進する取り組みを行っています。家庭や所属する園での適応を進めるために、保護者や関係者も一緒に成長していく場を目指しています。



パパ・ママ教室

赤ちゃんのお風呂の入れ方の実習や、妊婦シミュレーターを着用した妊婦体験などを行うパパ・ママ教室。育児への関心を高め、楽しい子育てができるよう、パパとママになるための心の準備をする場となっています。



放課後児童クラブ

保護者が就労等の理由で昼間家庭にいない小学生を対象に、児童厚生施設等を利用して、適切な遊びや生活の場を提供し、その健全育成を図っています。現在11小学校区に12放課後児童クラブが設置され、子育て家庭を支えています。



確かな学力と豊かな心を育む 教育の推進へ

亀山市では将来を担うすべての子どもたちに確かな学力と豊かな心を育むために、さまざまな教育を推進しています。

少人数教育推進事業 「ふるさと先生」



1 学級 35 人以上の過密学級を解消したり、少人数指導を行ったりすることにより、きめ細かな教育が実施できるよう、平成 21 年度より、市単独のふるさと先生を小・中学校に配置してきました。

少人数教育について、亀山の子どもたちは、91%の子どもが「少人数の方が勉強がわかる」と答え、89%の子どもが「少人数の方が授業に集中できる」と答えています。

今後も、少人数教育を充実させ、子どもたち一人ひとりに行き届いたきめ細かな指導ができる環境づくりに努めていきます。

特色ある教育活動を展開

学校においては、少人数教育で子ども一人ひとりの学習の実態に応じたきめ細かな学習指導を推進するほか、大型液晶テレビ、電子黒板等の ICT 機器類を積極的に活用し、子どもたちの興味や関心を高める指導方法を取り入れています。

また、子どもたちが通いたくなるような温かく楽し

レー]等の取り組みを進めるとともに、市立図書館との連携を図り、学校図書館の環境を充実させるよう取り組みを進めています。

歴史博物館との協力により、各学校で地域資料の教材化や出前授業の開催など、地域資産を活かした教育を進めています。

さらに、放課後子ども教室の取り組みを推進し、地域の人々がスポーツや文化活動を通して、積極的に子どもたちの育成に関わっていただくことを促進しています。

家庭における教育は、人間形成の土台であると考え、家庭と地域社会が一体となった子育てが求められています。この実現に向けて幼児の基本的な生活習慣や自己肯定感の確立に特化した講座やリーフレットの配布等の取り組みを進めています。



学校給食での地産地消の取り組み

小学校9校と関学校給食センターで実施している「かめやまっ子給食」は、市内産の米や農産物を献立に多く取り入れ、子どもたちにも大好評。デリバリー給食では、県内産の食材を献立に多く取り入れた「地物が一番みえの日」メニューを実施しています。

1. 「おはよう」「ありがとう」のいえる子
2. きまりや交通ルールを守る子
3. 運動や読書に親しむ子
4. 力を合わせて仕事をする子
5. 人やものを大切にする子
6. 未来に夢を持ち続ける子

亀山市・亀山市教育委員会
亀山市青少年育成市民会議

亀山っ子市民宣言

市民レベルで、目指す「子ども像」を策定し、家庭や地域をはじめ、青少年の育成団体・学校・行政が共通の目標を抱きながら市民総ぐるみで子どもを育成しようとする市民宣言。三重県内では初の取り組みで、平成 20 年 6 月に策定されました。



優良木造施設 「農林水産大臣賞」を受賞

平成 23 年に改築工事が完成した関中学校。地域のスギ材等を柱、壁、天井等に使用し、木のぬくもりを感じる校舎です。関町のまちなみに近いことから「まちづくりと調和のとれた学校施設」であることが高く評価され「平成 23 年度木造施設普及コンクール」で農林水産大臣賞を受賞しました。



歴史文化資産を活かした まちづくりと景観の形成へ

日本の東西を結ぶ街道の結節点であり、街道を介した人々の交流によって、特色のある歴史文化が育まれてきた亀山市。さまざまな役割を担ってきた数多くの歴史文化資産を活かしたまちづくりを進めています。

未来につなぐ歴史文化資産

亀山市は東海道が東西に横断し、その沿道は歴史的な景観の基軸となっています。平成 21 年には、歴史まちづくり法に基づく歴史風致維持向上計画の認定を受け、歴史文化資産を活かしたまちなみ整備を進めています。

城下町のたたずまいを残す亀山城周辺では、地域の歴史的な風致の維持・向上や、散策ルートを整備

するため、「城下町亀山」を形づくる城郭・武家屋敷・宿場で、歴史的な建造物等の保存・整備を行っています。

国の重要伝統的建造物群保存地区に選定され、平成 26 年 12 月に 30 周年を迎えた関宿では、歴史的考証のもと、江戸時代から明治時代にかけて建築された伝統的建造物等の修理・修景を行っています。また、来訪者のもてなしと交流の場づくりを進めるため、住民団体等の活動を支援し、施設の整備を推進しています。

これらと平行して、都市形成や景観の基本的な方針を示す「亀山市都市マスタープラン」「亀山市景観計画」に基づき、亀山城や関宿周辺などの独自の景観の保全に取り組んでいます。



旧亀山城多門櫓
「平成の大修理」

平成 25 年に完成した「平成の大修理」により、黒い板壁が真っ白な漆喰の大壁となり、江戸時代に建てられた当時の姿に復原されました。



旧館家住宅・加藤家屋敷跡・旧落合家住宅

亀山宿の旧館家住宅・加藤家屋敷跡、関宿の旧落合家住宅では公開も行われ、ギャラリーとしても活用されています。

亀山市歴史的 風致維持向上計画



この計画は、旧東海道沿道約 19.5km、500ha の範囲で、歴史的な建造物等の保存と、その周辺を整備するためのもので、「歴史まちづくり法」に基づいて亀山市が策定し、平成 21 年 1 月に国の認定を受けました。第 1 回目に認定された都市は、亀山市、金沢市、高山市、萩市、彦根市です。

認定後、歴史まちづくり関連事業は、この計画に基づいて国の支援を受けながら着実に進められ、その成果が形となって現れてきています。特に、亀山城周辺保存整備事業として行われた平成 25 年の旧亀山城多門櫓「平成の大修理」の完成により、亀山城周辺の散策ルートの整備が大きく進み、同じく改修や復原修理された旧館家住宅・加藤家屋敷跡などへの回遊性も向上し、一体的な活用のさらなる充実が期待されています。

平成 25 年 10 月には「第 2 回中部歴史まちづくりサミット」が亀山市で開催され、中部地方の歴史的風致維持向上計画の認定都市 7 市町が参加。認定都市との交流が深まることで連携や協力につながる、歴史まちづくりのネットワークが広がっています。





市民の創意と活力をいかした いきいきと輝くまちへ



安心・安全な暮らしを守る 防災力・消防力の向上へ

幅広い分野で市民活動が活発に行われている亀山市。
その担い手である市民の力はまちづくりの原動力となっています。

東日本大震災を受け、これまでも増して安心・安全で災害に強いまちづくり
が求められる中、防災力と消防力の充実・強化に取り組んでいます。

人と人のつながりを創造

「亀山市協働の指針」や「亀山市まちづくり基本条例」に基づき、市民参画・協働のまちづくりを進めています。市民協働センター「みらい」を拠点に、市民活動講座の開催や市民活動情報の提供などを行うとともに、市民と行政の多様なアイデアを協働して事業化する「協働事業提案制度」、市民活動応援券を活用した「市民活動応援制度」などを導入し、市民活動団体の自立や活性化を促進しています。

共生社会への実現に向けて「ヒューマンフェスタ in 亀山」の開催などによる人権意識の高揚や、公民館講座や映画祭を通じて男女共同参画社会の推進にも取り組んでいます。また、外国人住民を対象とした日本語教室の開催など、多文化共生社会に向けた取り組みも進めています。

生涯学習については、「いつでも、どこでも、だれでも学べる」生涯学習社会の実現に向け、多彩な公民館講座を中心とした学びの場を提供しています。



市民活動応援制度

市が発行した「市民活動応援券」を使用して、まちづくりにがんばっている市民活動団体を市民が応援できる制度。市に登録した市民活動団体は、取得した応援券の枚数に応じて「応援交付金」が市から交付され、今後の活動資金を得ることができます。



公民館講座

毎年、新しい講座が開講され、生涯学習のきっかけづくりや人と人の輪をひろげる機会となっています。



日本語教室

さまざまな国籍の人が参加し、ボランティア講師による日本語の学習のほか、日本の文化を学習したり、暮らしに関する相談を受けたりすることで、幅広い交流の場となっています。

まちの防災力・消防力を高める

防災については、防災訓練の実施、自主防災組織の強化、木造住宅の耐震補強工事等への補助、防災マップ・洪水ハザードマップの配布などを行い、防災・減災への取り組みを強化しています。また、大規模災害時の応急・復旧対策や物資の確保等を円滑に行うため、他の自治体との応援協定や各種団体・企業等との支援協定を進めています。

消防については、人口が増加している市北東部への分署の開設（平成27年4月）、消防救急無線のデジタル化、少年消防クラブの育成など、消防力の充実・強化に取り組んでいます。また、市立医療センターとの連携による救急ワークステーションを本格運用し、質の高い救急サービスの提供に取り組んでいます。

救急ワークステーション

市立医療センターに救急隊員を派遣し、救急隊員の知識や技術を向上させる教育の拠点。平成26年に本格運用を開始し、実習中に救急要請があった場合は、状況に応じて医師が救急車に同乗し、救急隊員に指示や助言を行います。



少年消防クラブ

将来の地域防災を担う子どもたちを育成しています。



防災マップ・洪水ハザードマップ

市内全域の避難場所や避難所、台風や集中豪雨等による浸水危険箇所などを掲載しています。



市民に身近な 開かれた議会へ

亀山市議会は、市民の代表として選挙で選ばれた18名の議員で構成され、同じく選挙で選ばれた亀山市長とともに亀山市の代表機関です。

地方分権が推進され、新しい地方自治の時代を迎え、地方議会の果たす役割は、ますます重要になってきています。

そこで、二元代表制のもと、市政の一翼を担う市議会として、その機能強化を図るとともに、市民ニーズを的確に把握し、諸施策の更なる充実を図れるよう取り組んでいます。

議会は、定例会が年に4回と、必要に応じて臨時会を開催しています。

その他に、「議会運営委員会」と「総務委員会」「教育民生委員会」「産業建設委員会」「予算決算委員会」

の4つの常任委員会を設置しています。

また、専門的な調査や研究を行う場合は、必要に応じ特別委員会が設置されます。

これらの議会活動は、ケーブルテレビとインターネットで会議の様子や議会報告番組を放送しているほか、議会だよりやホームページでも公表しています。



副議長 鈴木達夫

議長 前田 稔



継続的な議会改革を 推進しています

平成22年8月に議会基本条例を施行以降、継続した議会改革を推進するため、「議会改革推進会議」およびその補助機関として「検討部会」を設置しています。

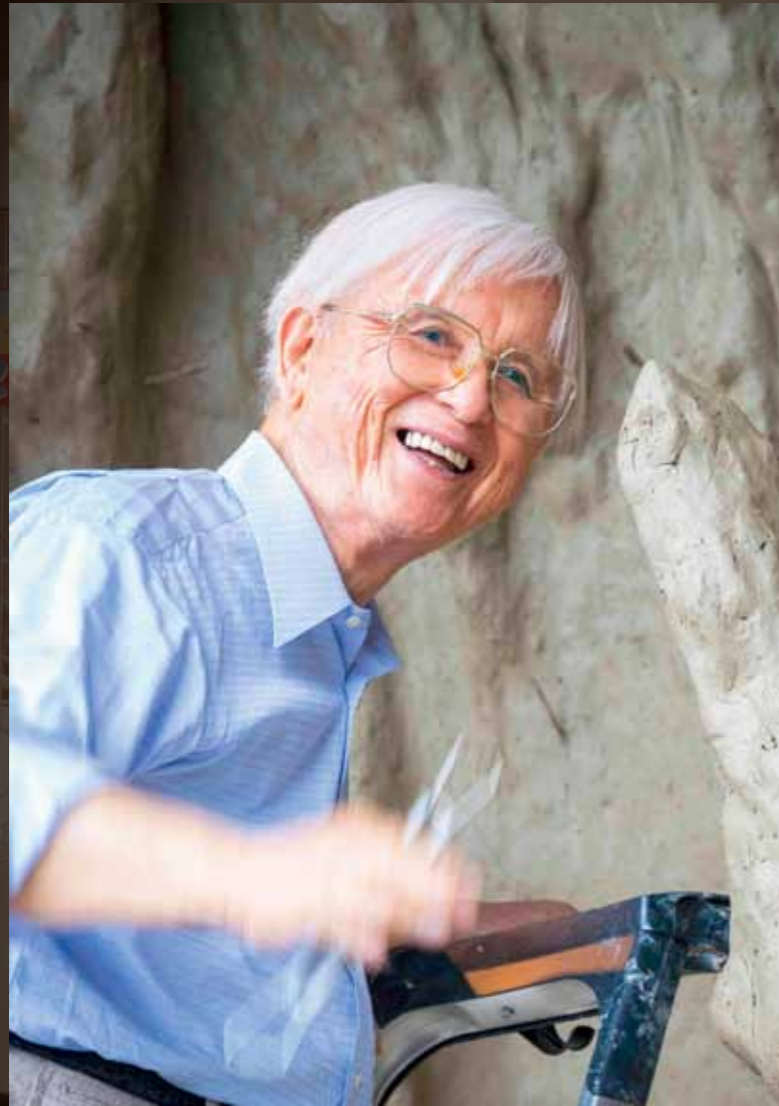


「見える議会」を 推進しています

議会の公開性と透明性の向上に努め、議会が市民に身近で信頼されるものとなるよう、議会活動の情報発信の充実に努めるなど、「見える議会」に取り組んでいます。

亀山市名誉市民

彫刻家 ^{なかむら} ^{しんや} 中村 晋也



私の幼少時代、青春時代を育てくれた

山河は今も鮮やかに臉に浮かび、
昨日のことにように当時のことが
蘇って参ります。

私の知る亀山町が亀山市になり、
新たな発展をとげていらっしゃることに
喜びを覚えます。

守るべきものと変わりゆくものが
調和して、これからも益々、
市民の皆様が文化の香り高い、
豊かな未来を創出されますことを
願っております。

ブロンズ像「わたしの宝物」

中村晋也さんから亀山市にご寄贈いただいたブロンズ像「わたしの宝物」が、市文化力の発信の拠点である市文化会館に設置され、2010（平成22）年10月16日に除幕式が盛大に行われました。ブロンズ像「わたしの宝物」は、中村晋也さんが1995（平成7）年に制作をされた秘蔵の作品で、市文化会館を訪れる多くの皆さんの心をやさしく包み込んでいます。



彫刻家 中村 晋也 なかむらしんや

1926（大正15）年生まれ。2歳から22歳まで三重県鈴鹿郡井田川村（現亀山市）に在住。東京高等師範学校（現筑波大学）卒業後は、鹿児島を拠点に精力的に作品づくりに取り組まれ、「焦躁の旅路」で文部大臣賞、「朝の祈り」で日本芸術院賞などを受賞。特に、1995（平成7）年に発生した阪神淡路大震災被災者の鎮魂のために制作を始めた「ミゼレー」シリーズや「釈迦十大弟子」像は、造形対象をより深く掘り下げた精神性を帯びた芸術の真髄ともいえる代表作で、常に変化し続ける独創的な作風と、その優美な芸術性は、国内外で高く評価されている。2007（平成19）年文化勲章受章。2009（平成21）年亀山市名誉市民。

亀山市名誉市民
中村晋也作品展

平成22年11月2日から29日まで、あいあいで「亀山市名誉市民 中村晋也作品展」が開催されました。作品展には、中村晋也さんの新旧の代表作品43点が展示され、作品を一目見ようと多くの人々が市内外から訪れました。

ふるさと亀山の 誇りを明日へ



INFORMATION



市章

亀山市の特徴である豊かな自然や歴史文化を守り、さらに高めていく姿を大きな山並みとして表し、曲面(ウェーブ)はときめく亀山市の限りない発展を表しています。



市の木

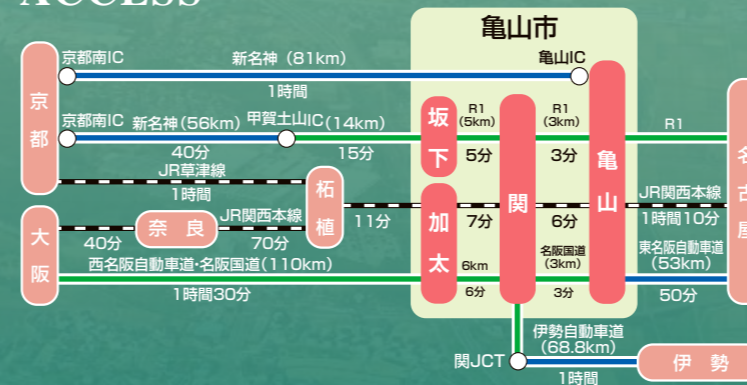
市の木「杉」は、野登寺の杉並木や川俣神社、片山神社のご神木の杉など、市内を代表する歴史的な背景を持つ史跡とともに、古くからなじまれてきた木です。



市の花

市の花「花しょうぶ」は、亀山公園内の菖蒲園に100種12,000株の花が咲き誇り、毎年6月には「花しょうぶまつり」が開かれるなど、なじみ深く親しみのある花です。

ACCESS





三重県 亀山市役所

〒519-0195 三重県亀山市本丸町577番地
TEL 0595-82-1111(代表) FAX 0595-82-9955
URL <http://www.city.kameyama.mie.jp>